

大分の最先端をいくフロントライン

AIやテクノロジーの進歩に注目が集まる昨今。産学連携の視点から、市内の学校で最先端技術の研究・開発に取り組む、未来を見据えた挑戦に迫ります。



日本文理大学

工学部情報メディア学科

福島学 教授

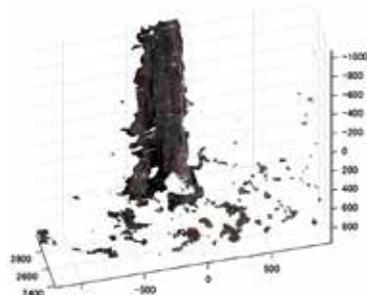
より安全な飛行の実現を目指して

世界で注目を集めている「ドローン」。空からの撮影はもちろん、各種調査や計測、さらに物資輸送などの活用も始まっています。

ドローンを用いて立体計測を行い、データから素材の太さや形などを判別する分析手法の開発に取り組んでいる福島教授。「何度もドローンを飛ばしてきましたが、ドローンの飛行が不安定になる理由の一つは、周囲の空気の流れによる

ものです。ならばドローン周囲の空気の流れである‘風’を測定し、機体制御にフィードバックできれば、より安全な飛行が可能になるのでは？」と思い、フライト情報から周辺環境を分析する研究を進めています。測定には「音の伝わり」を利用。同じ条件で計測し、結果にズレが出れば、「空気が動いた」つまり‘風’があるということが分かります。また計測にはドローン自体の飛行音を使用しているため、機体に搭載するのはマイクのみで、非常に『エコ』な一面も持った研究です。

「ドローンの安全性を高め、防災に役立つ情報など、より地域に密着した情報を得て、安心・安全な暮らしに役立てたい」と、今後の展望を語ってくださった福島教授。これからの研究に期待が高まります。



▲ドローンに3Dカメラを搭載し、画像データから樹木の「形状」を解析



音を測定するマイク。「まだテスト段階なので見た目は気にしないでください」



表紙の
ことば

回遊劇場の情報発信の拠点となる府内町の「回遊Cafe#204」。今回は、回遊劇場参加アーティストの中から、美術ユニットのOelectronica（左手前）、画家の芳賀健太さん（右手前）、建築家の松田周作さん（右奥）と、運営協力のふくろうの森ビル 古山圭二さん（中央）に集まってもらいました。